

令和元年度 第8回
希望郷いわてモニターアンケート

ひとにやさしいまちづくりに関する意識調査結果

令和2年3月
岩手県保健福祉部地域福祉課

ひとにやさしいまちづくりに関するアンケートの結果について

I アンケートの趣旨

平成7年に「ひとにやさしいまちづくり条例」を制定し、誰もが利用しやすい建物、交通機関等の整備の促進や県民の方々に対するひとにやさしいまちづくりについての普及啓発を進めてきたところです。本調査は、今後の県が進めるひとにやさしいまちづくりに関する施策の参考とするために実施しました。

II 調査実施期間

令和元年12月3日（火）～ 令和元年12月23日（月）

III 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

IV 調査対象

令和元年度希望郷いわてモニター 258名

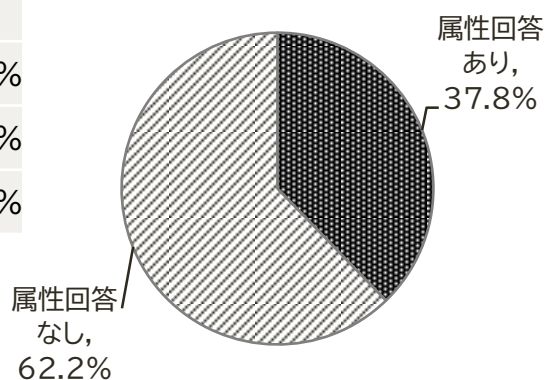
V 回答者数

196名

VI 回答率 76.0%

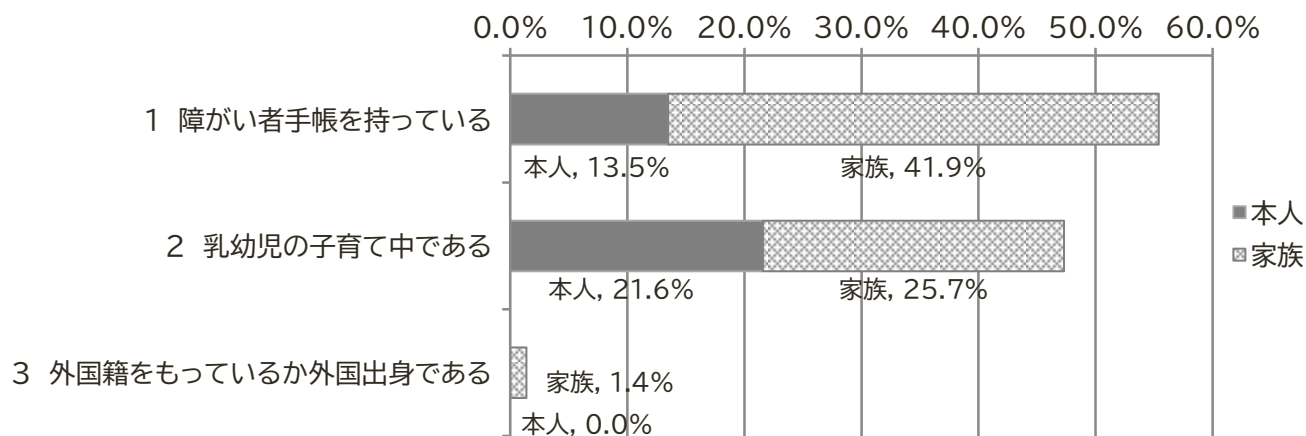
回答者の属性

	回答者数	比率
属性回答あり	74	37.8%
属性回答なし	122	62.2%
合計	196	100.0%



<属性の内訳> (重複あり)

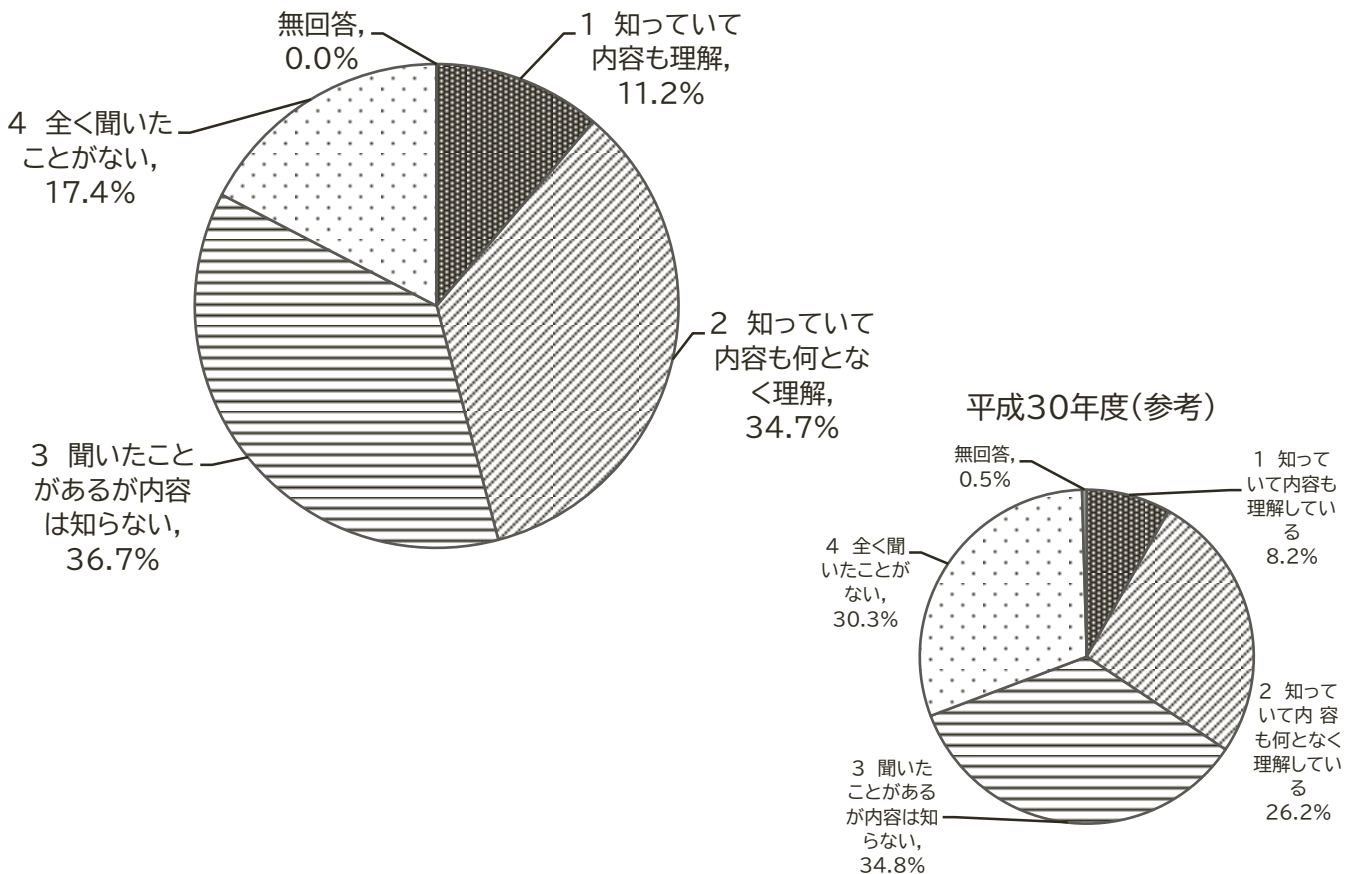
	本人		家族		計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
1 障がい者手帳を持っている	10	13.5%	31	41.9%	41	55.4%
2 乳幼児の子育て中である	16	21.6%	19	25.7%	35	47.3%
3 外国籍を持っているか外国出身である	0	0.0%	1	1.4%	1	1.4%
合計	26	35.1%	51	68.9%	-	-



問1

県の「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について、知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 知っていて内容も理解している	22	11.2%	18	8.1%
2 知っていて内容も何となく理解している	68	34.7%	58	26.2%
3 聞いたことがあるが内容は知らない	72	36.7%	77	34.8%
4 全く聞いたことがない	34	17.4%	67	30.3%
無回答	0	0.0%	1	0.5%
合計	196	100.0%	221	100.0%



【調査結果】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針について知っていて内容も理解している方（「何となく理解している」も含む。）は45.9%となり、平成30年度と比較し、11.5ポイント増加した。

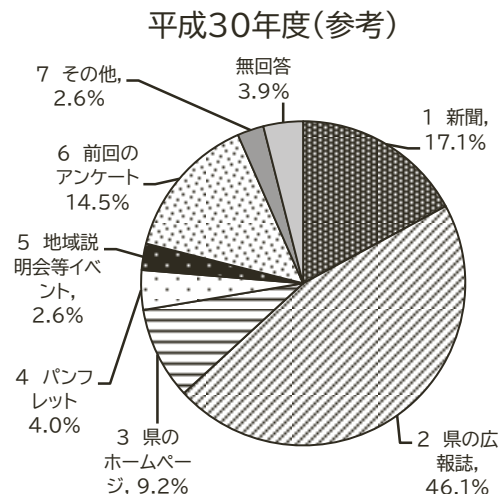
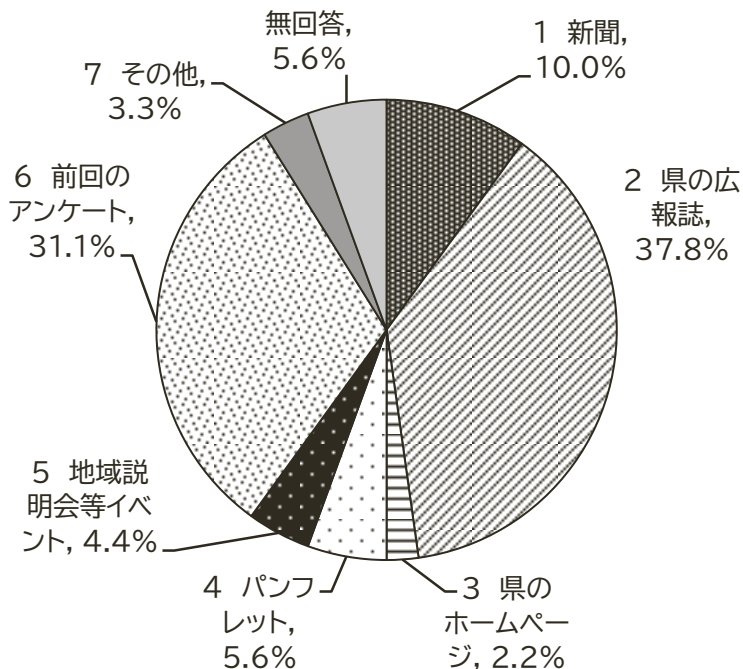
問2

問1で①又は②を選択された方にお聞きします。「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について知ったきっかけは何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 新聞	9	10.0%	13	17.1%
2 県の広報誌	34	37.8%	35	46.1%
3 県のホームページ	2	2.2%	7	9.2%
4 パンフレット	5	5.6%	3	3.9%
5 地域説明会等イベント	4	4.4%	2	2.6%
6 前回のアンケート	28	31.1%	11	14.5%
7 その他	3	3.3%	2	2.6%
無回答	5	5.6%	3	3.9%
合計	90	100.0%	76	100.0%

<7その他の主な内容>

- 業務の講習会等。
- 以前、手話通訳をしていたとき。
- 業務上知っている必要がある。



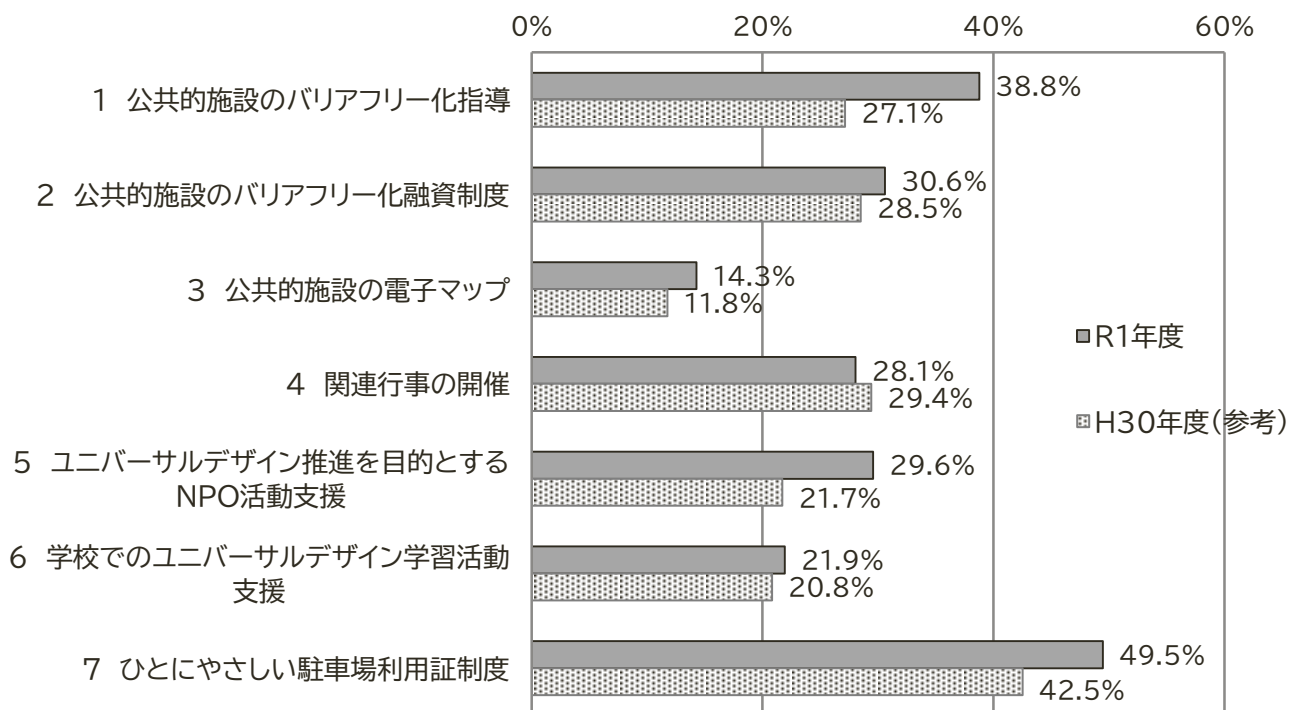
【調査結果】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針を知ったきっかけとして、県の広報誌と回答した方の割合が多く、今後も普及啓発を継続する必要がある。

問3

県では、前記の条例に基づき、以下の事業を展開していますが、見たり聞いたりしたことがあるもの、利用したことがあるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 公共的施設のバリアフリー化指導	76	38.8%	60	27.1%
2 公共的施設のバリアフリー化融資制度	60	30.6%	63	28.5%
3 公共的施設の電子マップ	28	14.3%	26	11.8%
4 関連行事の開催	55	28.1%	65	29.4%
5 ユニバーサルデザイン推進を目的とするNPO活動支援	58	29.6%	48	21.7%
6 学校でのユニバーサルデザイン学習活動支援	43	21.9%	46	20.8%
7 ひとにやさしい駐車場利用証制度 (回答者実数計)	97	49.5%	94	42.5%
	196	-	221	-



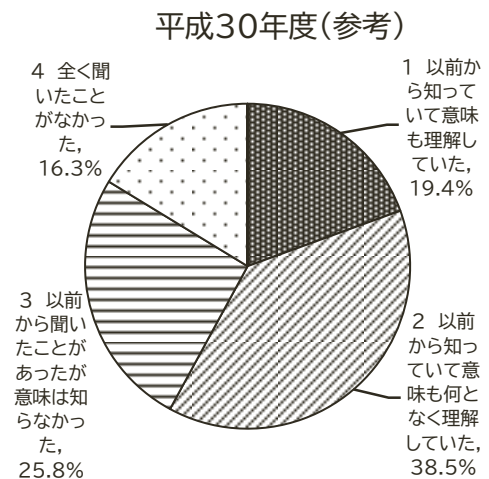
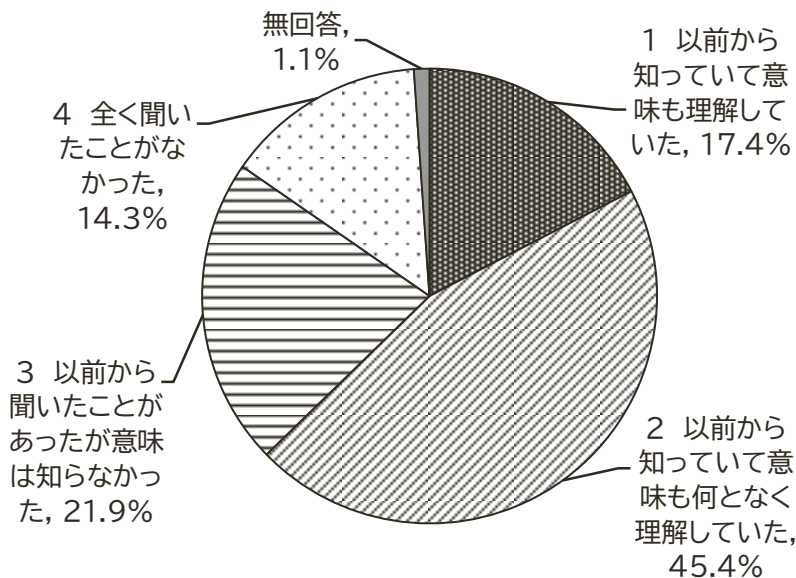
【調査結果】

平成22年度から取り組んでいる「ひとにやさしい駐車場利用証制度」の認知度が49.5%と最も高く、次いで、「公共的施設のバリアフリー化指導」が38.8%となっている。

問4

「ユニバーサルデザイン」について、本アンケートに御協力いただく前は、どの程度知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 以前から知っていて意味も理解していた	34	17.4%	43	19.4%
2 以前から知っていて意味も何となく理解していた	89	45.4%	85	38.5%
3 以前から聞いたことがあったが意味は知らなかった	43	21.9%	57	25.8%
4 全く聞いたことがなかった	28	14.3%	36	16.3%
無回答	2	1.1%	0	0.0%
合計	196	100.0%	221	100.0%



【調査結果】

「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていて意味も理解している方（「何となく理解」も含む。）の割合は62.7%となり、平成30年度と比較して、4.8ポイント増加した。

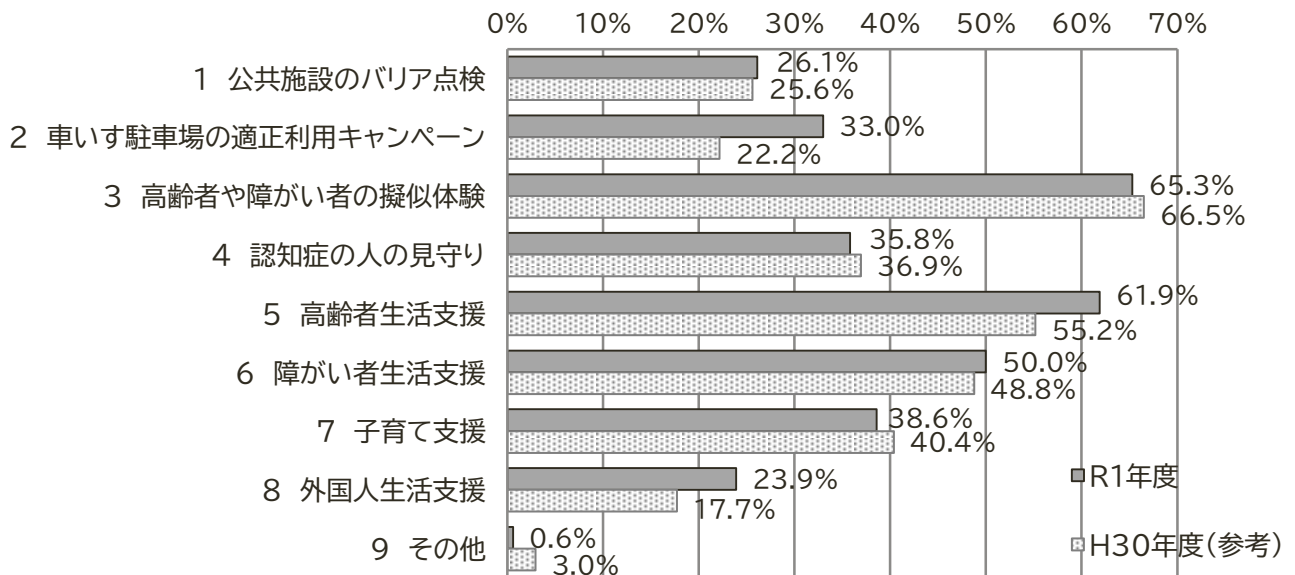
問5

以下の活動やその活動に取り組む民間団体・グループを見たり聞いたり、実際に参加したことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 公共施設のバリア点検	46	26.1%	52	25.6%
2 車いす駐車場の適正利用キャンペーン	58	33.0%	45	22.2%
3 高齢者や障がい者の疑似体験	115	65.3%	135	66.5%
4 認知症の人の見守り	63	35.8%	75	36.9%
5 高齢者生活支援	109	61.9%	112	55.2%
6 障がい者生活支援	88	50.0%	99	48.8%
7 子育て支援	68	38.6%	82	40.4%
8 外国人生活支援	42	23.9%	36	17.7%
9 その他	1	0.6%	6	3.0%
(回答者実数計)	176	-	203	-

<9その他の内容>

- スーパーで実施している高齢者買い物支援事業



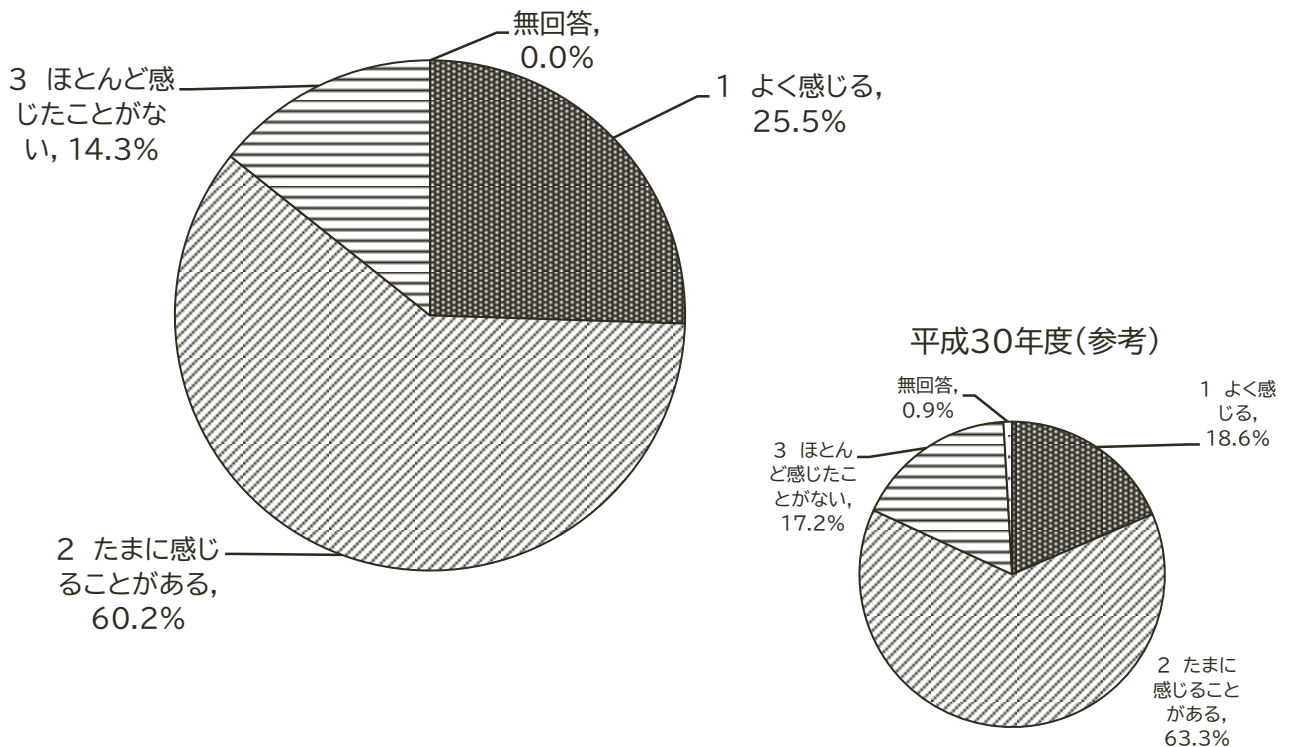
【調査結果】

見たり聞いたり、参加したことがある割合が多いのは、「高齢者や障がい者の疑似体験」、「高齢者生活支援」、「障がい者生活支援」となっている。平成30年度と比較して、「車いす駐車場の適正利用キャンペーン」が7.8ポイント増加した。

問6

まちの中の「ハード」（公共的施設、道路など）を利用又は移動するときにはバリア（障壁）を感じることはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる	50	25.5%	41	18.6%
2 たまに感じることもある	118	60.2%	140	63.3%
3 ほとんど感じたことがない	28	14.3%	38	17.2%
無回答	0	0.0%	2	0.9%
合計	196	100.0%	221	100.0%



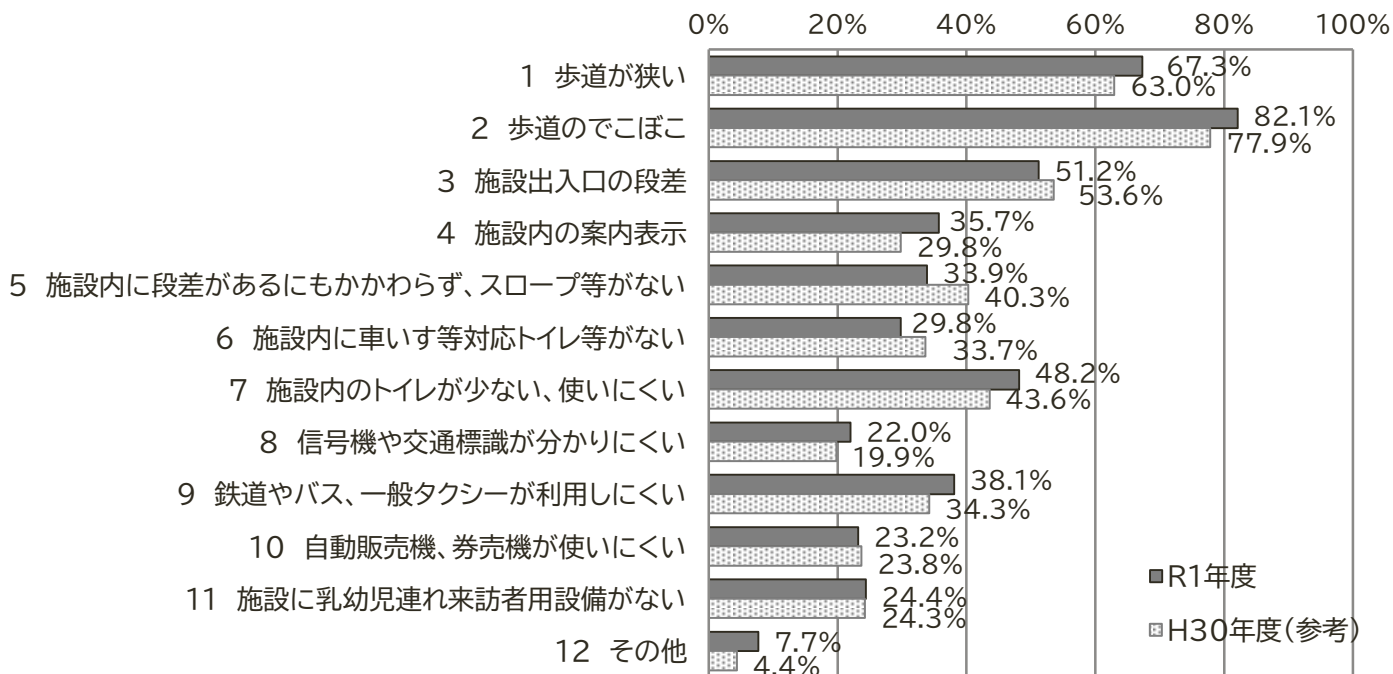
【調査結果】

「よく感じる」と回答した方が約7ポイント増加し、「よく感じる」「たまに感じることもある」と回答した方の割合は、85.7%となった。

問7

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じるのはどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 歩道が狭い	113	67.3%	114	63.0%
2 歩道のでこぼこ	138	82.1%	141	77.9%
3 施設出入口の段差	86	51.2%	97	53.6%
4 施設内の案内表示	60	35.7%	54	29.8%
5 施設内に段差があるにもかかわらず、スロープ等がない	57	33.9%	73	40.3%
6 施設内に車いす等対応トイレ等がない	50	29.8%	61	33.7%
7 施設内のトイレが少ない、使いにくい	81	48.2%	79	43.6%
8 信号機や交通標識が分かりにくい	37	22.0%	36	19.9%
9 鉄道やバス、一般タクシーが利用しにくい	64	38.1%	62	34.3%
10 自動販売機、券売機が使いにくい	39	23.2%	43	23.8%
11 施設に乳幼児連れ来訪者用設備がない	41	24.4%	44	24.3%
12 その他	13	7.7%	8	4.4%
(回答者実数計)	168	-	181	-



【調査結果】

歩道（狭い、でこぼこ）にバリアを感じると回答した方が多く、歩道のでこぼこについては、8割以上の方がバリアと感じている。

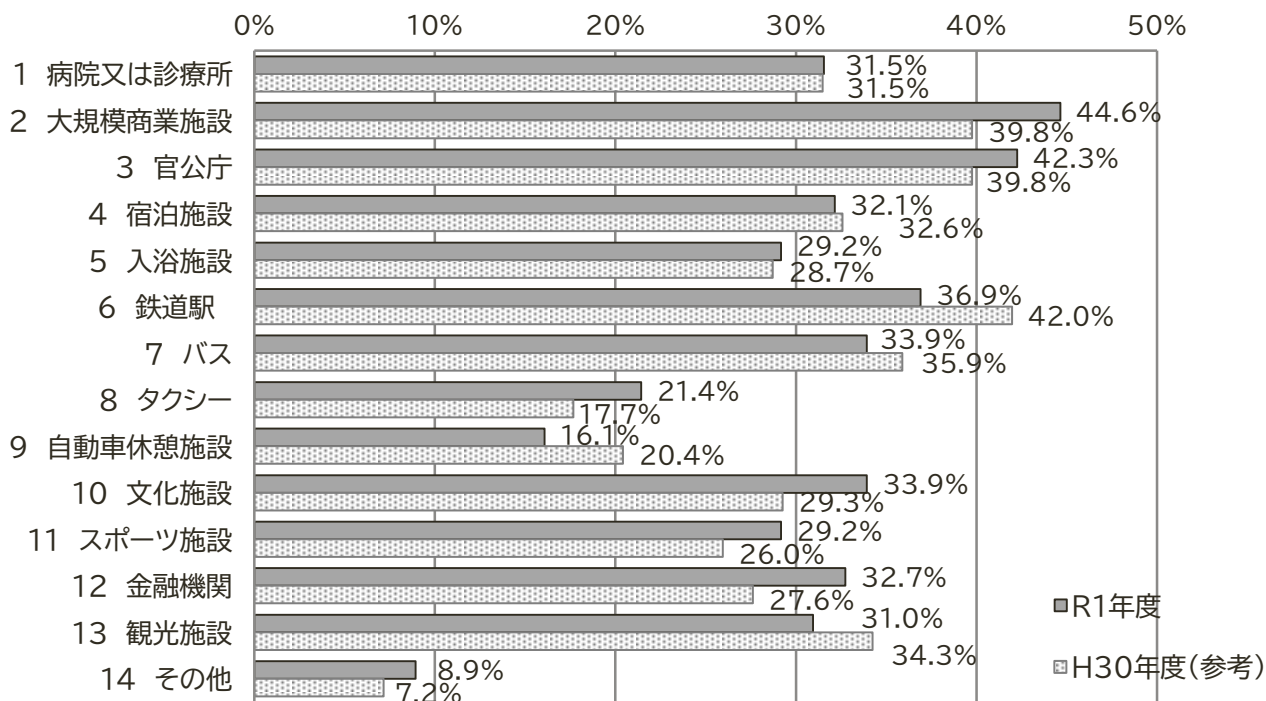
<12その他の内容>

- 公共施設（特に体育館）の中で、2階に観覧席があるが、エレベーターが無く障がい者が不便で観覧出来ない。
- 雨、雪など悪天候時、床が濡れると滑りやすく歩きにくい。
- 主に交差点での車いすの移動が困難（段差等）。
- 観光地について、車いすでの移動が大変だった。
- トイレについて、無理やりに洋式にしたために狭い個室が多いと思う。
- 信号機について、時間で曲がれない所で曲がろうとする車が多いと感じた（盛岡の国道4号等）。
- タクシーを利用するときに、運転手の無愛想な対応に心が折れそうな時がある。わざと遠回りされたこともあり、車がなく、バス、タクシーを利用せざるを得ないことを見ずかされているのではと思うことがある。
- 鉄道構内での視覚障がい者への設備対応の遅れ（ホームドア）がある。
- 私自身車いす常用・視聴覚障がい（2級）であり、全てについて該当する。
- 歩道や側溝のグレーチング等、降雨時滑りやすい。また、歩道が十分整備されていない。
- 車いす利用者の方にとって、スーパーで買い物する際、商品ケース、購入品袋詰めテーブルの高さが、高すぎる。あるスーパーでは、改善されている。
- 車いす使用者だが、市役所正面玄関前に雨よけ設備がほしい。
- 歩道が草刈りされていなくて歩きづらい。

問8

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じたことのある施設等を全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	53	31.5%	57	31.5%
2 大規模商業施設	75	44.6%	72	39.8%
3 官公庁	71	42.3%	72	39.8%
4 宿泊施設	54	32.1%	59	32.6%
5 入浴施設	49	29.2%	52	28.7%
6 鉄道駅	62	36.9%	76	42.0%
7 バス	57	33.9%	65	35.9%
8 タクシー	36	21.4%	32	17.7%
9 自動車休憩施設	27	16.1%	37	20.4%
10 文化施設	57	33.9%	53	29.3%
11 スポーツ施設	49	29.2%	47	26.0%
12 金融機関	55	32.7%	50	27.6%
13 観光施設	52	31.0%	62	34.3%
14 その他	15	8.9%	13	7.2%
(回答者実数計)	168	-	181	-



【調査結果】

大規模商業施設、官公庁、鉄道駅の順に、バリアを感じると回答した方の割合が多い。

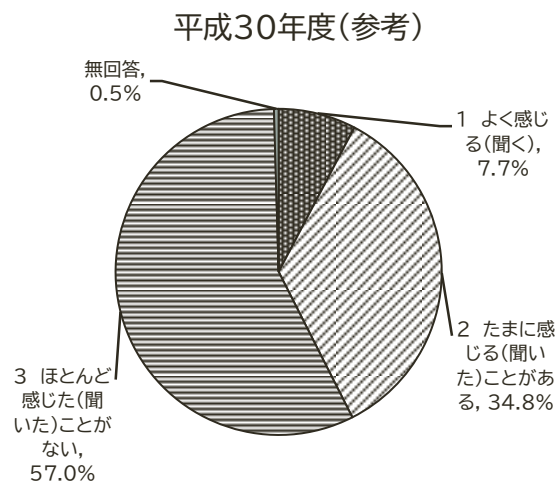
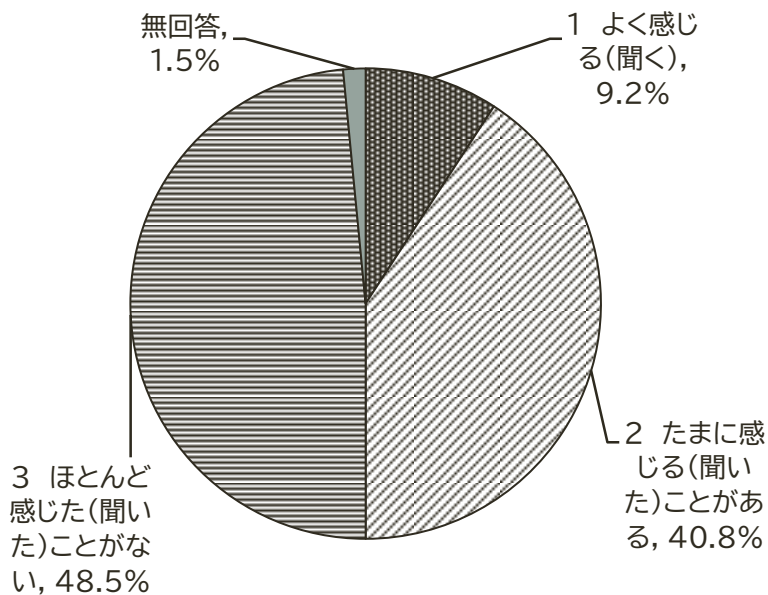
<14その他の内容>

- 県営野球場が新設される予定とのことだが、是非エレベーターの設置を要望する。
- 玄関口に、車いす用のスロープが設置されてはいるが、傾斜が急な所が多くみられる。
- 通学路。
- 主に昔からある場所でバリアが多い。
- バスを利用するので、待ち時間を過ごせる場所がなく不便。ななっくもなくなり、バスセンターもないので、冬はつらい。
- 大型商業施設は、車いす使用者にとって、利用しやすいとのこと、利用する傾向が見受けられる。
- 一般の道路の歩道は危険を感じるレベル。障がいの有無に関わらず、歩きやすい安全な舗道（歩道）にしてほしい。
- 県施設等より市町村関係施設が不便。担当職員等の認識も遅れていると感じる。
- 近所。通学路。
- 住宅街の歩道。各住宅の出入り口で斜めになっているため高齢者は車道を歩いている。
- 県道沿いの歩道が未整備。
- 県交通の南青山町バス停から大新小学校へ向かう道路。
- 公共的施設、商業施設のトイレ。
- 盛岡駅西口タクシー乗り場は、特に、車いす使用者にとって非常に使い勝手が悪い。
- 国道市道に面する歩道。

問9

公共的施設の「ソフト」の対応（従業員による車いす用トイレやスロープ等バリアフリー設備の適切な管理、車いすの適切な取扱い等介助の技術、言語による意思疎通が困難な方に対する適切な応対等）で不便さや不満を感じたこと、あるいは身近な方から不便さや不満を聞いたことはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる(聞く)	18	9.2%	17	7.7%
2 たまに感じる(聞いた)ことがある	80	40.8%	77	34.8%
3 ほとんど感じた(聞いた)ことがない	95	48.5%	126	57.0%
無回答	3	1.5%	1	0.5%
合計	196	100.0%	221	100.0%



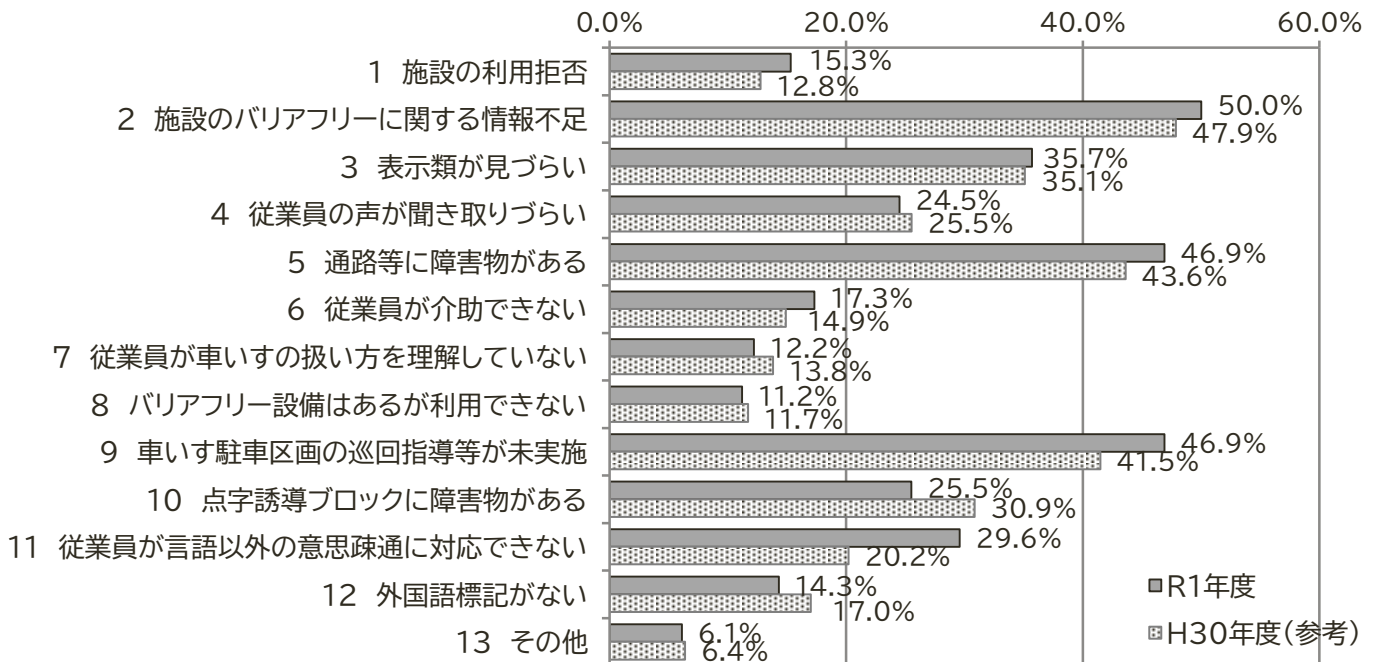
【調査結果】

「よく感じる(聞く)」、「たまに感じる(聞いた)ことがある」と回答した方の割合が、5割となり、平成30年度と比較して、7.5ポイント増加した。

問10

問9で①又は②を選択された方にお聞きします。「ソフト」の対応に不便さや不満を感じた（身近な方から聞いた）ことはどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 施設の利用拒否	15	15.3%	12	12.8%
2 施設のバリアフリーに関する情報不足	49	50.0%	45	47.9%
3 表示類が見づらい	35	35.7%	33	35.1%
4 従業員の声が聞き取りづらい	24	24.5%	24	25.5%
5 通路等に障害物がある	46	46.9%	41	43.6%
6 従業員が介助できない	17	17.3%	14	14.9%
7 従業員が車いすの扱い方を理解していない	12	12.2%	13	13.8%
8 バリアフリー設備はあるが利用できない	11	11.2%	11	11.7%
9 車いす駐車区画の巡回指導等が未実施	46	46.9%	39	41.5%
10 点字誘導ブロックに障害物がある	25	25.5%	29	30.9%
11 従業員が言語以外の意思疎通に対応できない	29	29.6%	19	20.2%
12 外国語標記がない	14	14.3%	16	17.0%
13 その他	6	6.1%	6	6.4%
(回答者実数計)	98	-	94	-



【調査結果】

「施設のバリアフリーに関する情報不足」、「通路等に障害物がある」、「車いす駐車区画の巡回指導等が未実施」と回答した方の割合が多い。平成30年度と比較して、「従業員が言語以外の意思疎通に対応できない」と回答した方が9.4ポイント増加した。

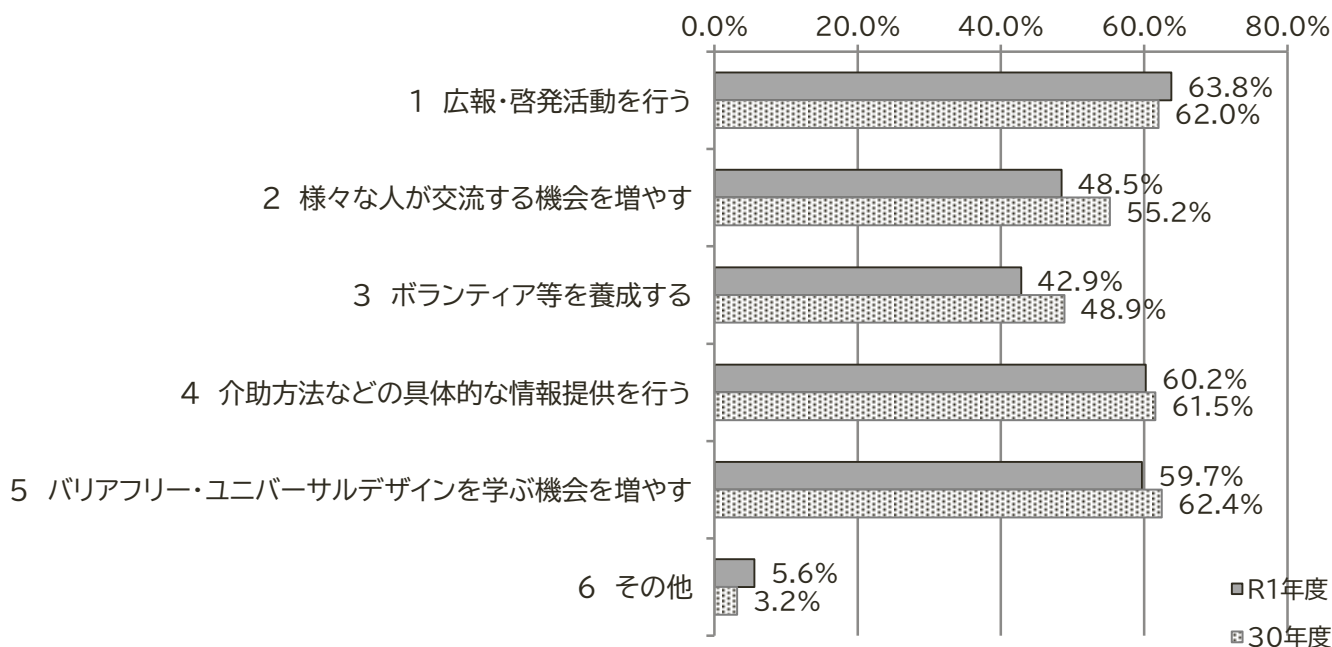
<13その他の内容>

- 車いす駐車区画について、車いすのステッカーや掲出するべきものを掲出していない車が結構停まっている。
- 障がい者の国会議員が、例えば、トイレ、風呂、食事（災害等）いろいろな提案をしている。
- 施設の館内が、節電し過ぎて暗いと感じたことがある。
- 車いす駐車区画に、健常者が駐車している。
- 私は、車いす使用者であり、介助者とともにサンビル郵便局前にタクシーで行ったときのこと。駐輪等が多く、車両の通行口でもあるため、タクシーの乗務員から「速やかに降車願います」と言われた。なぜこちら側がバリアに対して速やかな行動を求められるのか。バリアがなければ嫌な思いをせずに済む。このことは、ハード面、ソフト面、両方からの障壁である。障がい者は、このような不快を、健常者の何倍も感じ、社会にお世話になっている側だからと、自分に言い聞かせながら、生きている。
- 脚を怪我した高齢の父を病院に連れて行ったとき、若い男性患者が父の怪我した脚を跨いで歩き、びっくりした。

問11-1

「ひとにやさしいまちづくり」では、建物（ハード）や人の対応など（ソフト）だけではなく、様々な人々の立場を理解し、適切な行動を取ることができるよう、人を思いやることのできる心の醸成が大切であると考えられますが、心の醸成を進めるために、どのような取組が必要だと思えますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 広報・啓発活動を行う	125	63.8%	137	62.0%
2 様々な人が交流する機会を増やす	95	48.5%	122	55.2%
3 手助けするボランティア等を養成する	84	42.9%	108	48.9%
4 サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う	118	60.2%	136	61.5%
5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす	117	59.7%	138	62.4%
6 その他	11	5.6%	7	3.2%
無回答	1	0.5%	0	0.0%
合計	196	-	221	-



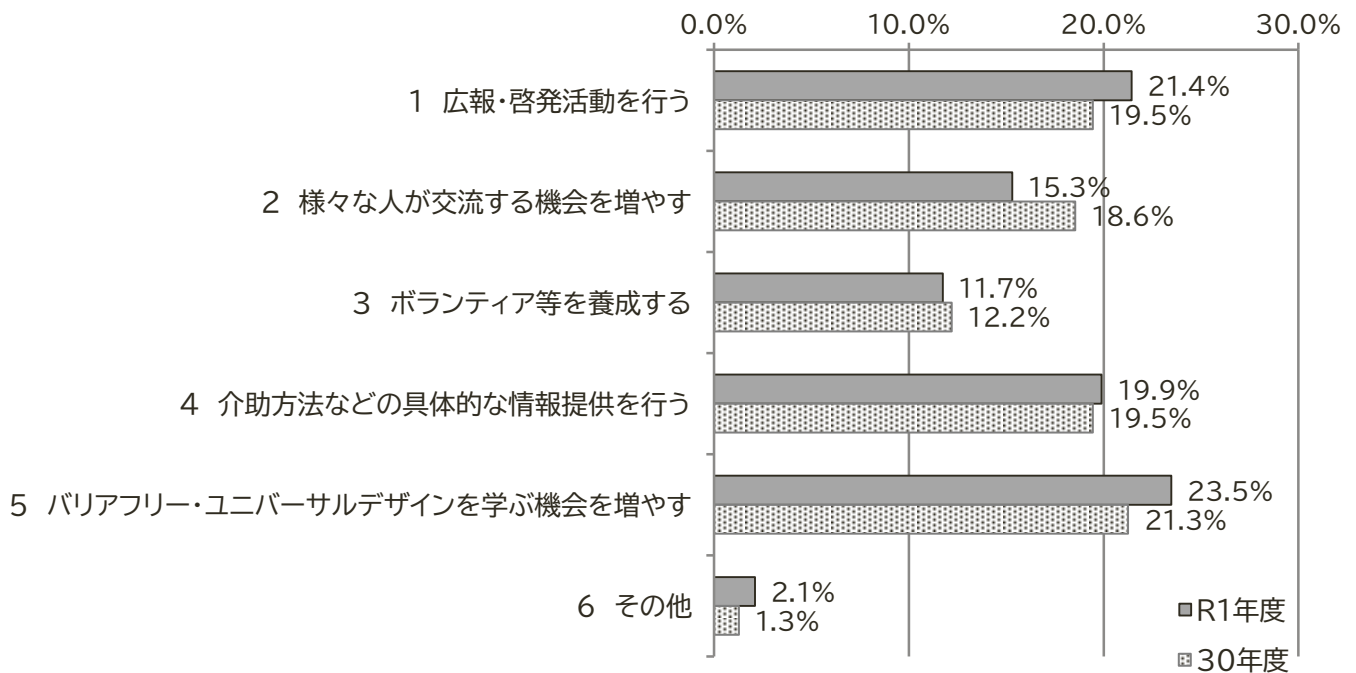
【調査結果】

「広報・啓発活動を行う」、「介助方法などの具体的な情報提供を行う」、「バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす」の順に、回答した方の割合が多い。

問11-2

さらに、その中で最も重要だと思われるものを次の中から1つ選んでください。

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 広報・啓発活動を行う	42	21.4%	43	19.5%
2 様々な人が交流する機会を増やす	30	15.3%	41	18.6%
3 手助けするボランティア等を養成する	23	11.7%	27	12.2%
4 サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う	39	19.9%	43	19.5%
5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす	46	23.5%	47	21.3%
6 その他	4	2.1%	3	1.3%
無回答	12	6.1%	17	7.6%
合計	196	100.0%	221	100.0%



【調査結果】

「バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす」が最も多く23.5%となり、次いで、「広報・啓発活動を行う」、「介助方法などの具体的な情報提供を行う」が約2割となった。

< 6 その他の主な内容 >

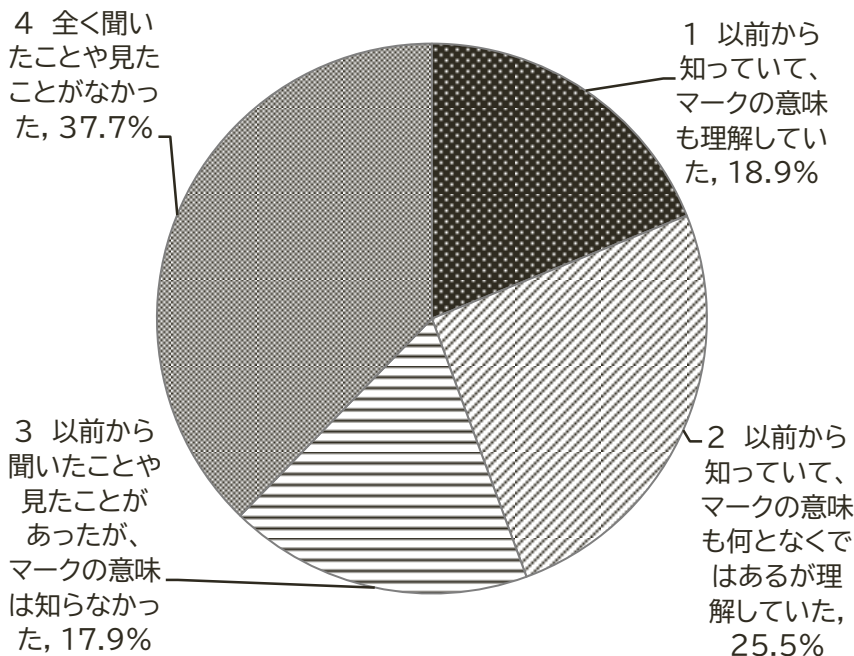
- 実際に障がい者等を学校へ招き、話をしてもらおう。選択肢「5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす」にもつながるが、学校での教育は大切だと思う。子どもの頃からの理解は習慣になる。援助が当たり前だと思うようになる。
- 様々な人の立場を理解するのであれば、特定の人だけでなく、健常者と思われる人達も満たされる活動もたくさんしてほしい。障がい者、高齢者へのサポート等をするには、それをする人に十分な心や体の余裕がなければ成り立たないと思う。
- 互助の気持ちと協力の意識を高める。車いす使用者が困っていても知らないふりをしてる人が多い。
- 忙しいのでそちらに気を回す余裕がある人がどれだけいるか。
- 自分が障がいや病気になってみると分かることも多いので、疑似体験をしてみた方がいい。
- コミュニティサービス（学校ではサービスラーニング）を経て、自発的なボランティアを行うよう、体制を整えるべき。
- 障がいを持つ方、高齢者、多様な人たちと触れ合う、接する場を持つことで変わる機会になるのでは。人にオープンな地域の環境作りも必要。

問12

県では、外見からは援助や配慮を必要とすることが分からない方が身に付けることによって、援助や配慮を得られやすくなるよう、「ヘルプマーク」の配付・普及に取り組んでいます。

「ヘルプマーク」について、本アンケートに御協力いただく前は、どの程度知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和元年度	
	件数	比率
1 以前から知っていて、マークの意味も理解していた	37	18.9%
2 以前から知っていて、マークの意味も何となくではあるが理解していた	50	25.5%
3 以前から聞いたことや見たことがあったが、マークの意味は知らなかった	35	17.9%
4 全く聞いたことや見たことがなかった	74	37.7%
合計	196	100.0%



ヘルプマーク

義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、妊娠初期の方など、外見からは分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう作成されたマーク。



【ヘルプマーク】

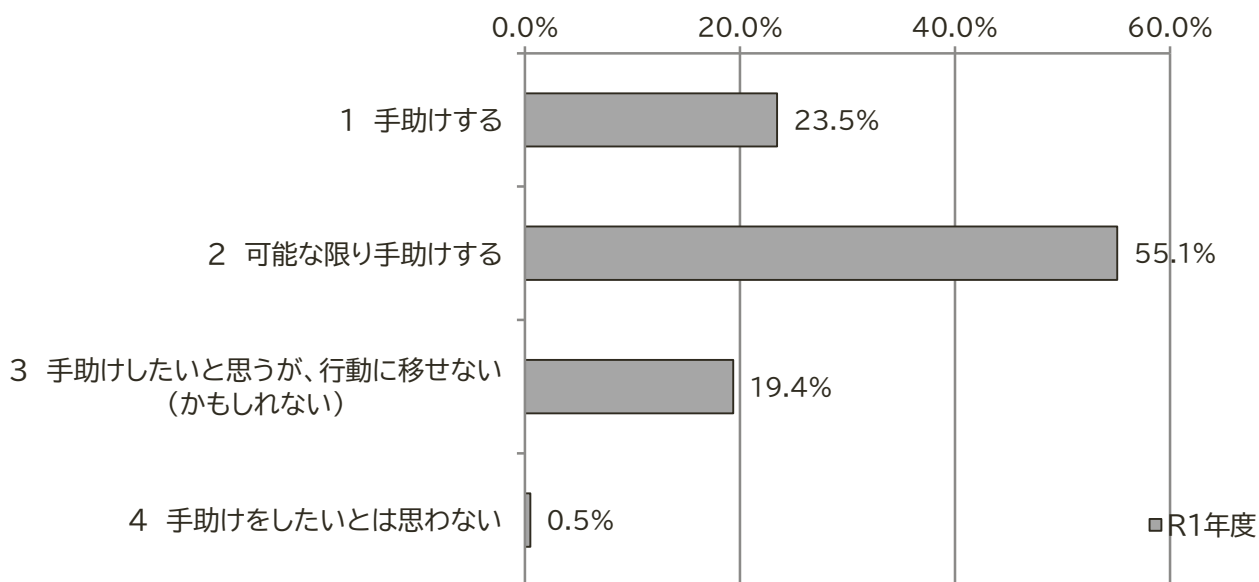
【調査結果】

今年度からの質問項目である。ヘルプマークの意味を「理解していた」、「何となくではあるが理解していた」と回答をした方の割合は、4割強となった一方で、「全く聞いたことや見たことがなかった」と回答した方の割合は4割弱となった。

問13

あなたは、外出の際、車いすの方が段差で進めなくなっていたり、視覚障がいのある方が迷っていたり、外国人の方が駅や道で迷っていたりした場合など、困っている様子を見かけた場合、声をかけて手助けをしますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和元年度	
	件数	比率
1 手助けする	46	23.5%
2 可能な限り手助けする	108	55.1%
3 手助けしたいと思うが、行動に移せない(かもしれない)	38	19.4%
4 手助けしたいとは思わない	1	0.5%
無回答	3	1.5%
合計	196	100.0%



【調査結果】

今年度からの質問項目である。「手助けをする」、「可能な限り手助けをする」と回答した割合は、約8割となった。「手助けをしたいと思うが、行動に移せない(かもしれない)」と回答した方の割合は、約2割となった。

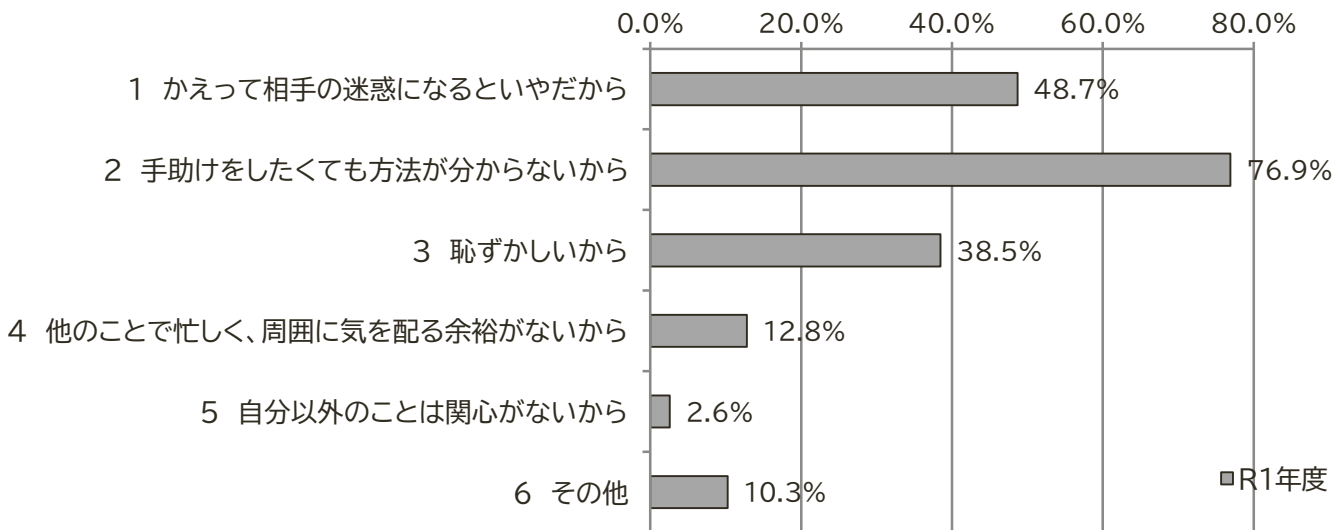
問14

問13で③又は④を選択された方にお聞きします。手助けをしない理由は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和元年度	
	件数	比率
1 かえって相手の迷惑になるといやだから	19	48.7%
2 手助けをしたくても方法が分からないから	30	76.9%
3 恥ずかしいから	15	38.5%
4 他のことで忙しく、周囲に気を配る余裕がないから	5	12.8%
5 自分以外のことは関心がないから	1	2.6%
6 その他	4	10.3%
(回答者実数計)	39	-

<6 その他の内容>

- 外国人に対しては、言葉が分からず説明できない。
- 電車の中で目の不自由な方がいたため、手助けを申し出たら、「お前に関係ない、うるさい」と罵倒されたことがあり、声かけが怖くなった。
- 相手から頼まれたらすると思うが、自分からは、相手の気持ちを考えてしない。



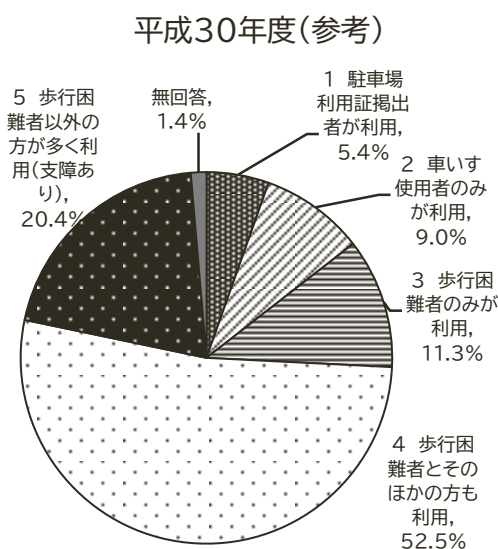
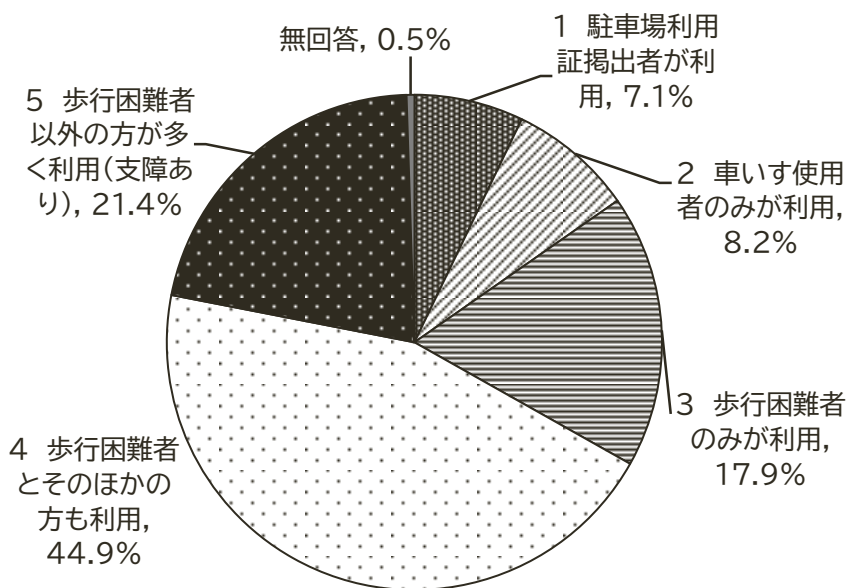
【調査結果】

今年度からの質問項目である。「手助けをしたくても方法が分からないから」と回答した方の割合が76.9%と最も多い。次いで、「かえって相手の迷惑になるといやだから」と回答した方の割合が48.7%となった。

問15

公共的施設には、車いすを使用される方や様々な状況で歩行が困難な方向けに「車いす駐車区画」が設けられています。最近の車いす駐車区画の一般的な利用状況について、どのように感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 駐車場利用証掲出者が利用	14	7.1%	12	5.4%
2 車いす使用者のみが利用	16	8.2%	20	9.0%
3 車いす使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難者のみが利用	35	17.9%	25	11.3%
4 車いす使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難者とそのほかの方も利用	88	44.9%	116	52.5%
5 車いす使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難者以外の方が多く利用(支障あり)	42	21.4%	45	20.4%
無回答	1	0.5%	3	1.4%
合計	196	100.0%	221	100.0%



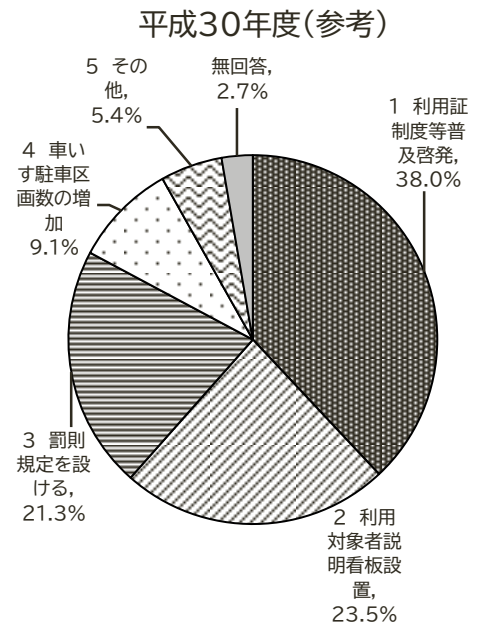
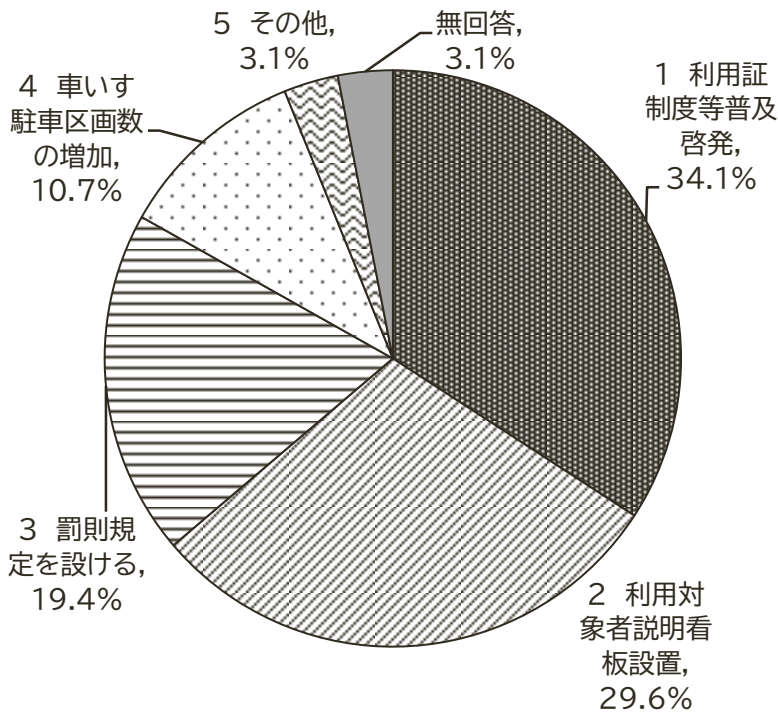
【調査結果】

「車いす使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難者のみが利用」と回答した割合は、平成30年度と比較して約7ポイント増加し約2割となった。「歩行困難者以外の方が多く利用(支障あり)」と回答した割合は、約2割で、平成30年度とほぼ同値となった。

問16

車いす駐車区画を車いす使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難な方が支障なく利用できるようにするには、どのようにしたら良いと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 利用証制度等の普及啓発	67	34.1%	84	38.0%
2 利用対象者説明の看板設置	58	29.6%	52	23.5%
3 罰則規定を設ける	38	19.4%	47	21.3%
4 車いす駐車区画数の増加	21	10.7%	20	9.1%
5 その他	6	3.1%	12	5.4%
無回答	6	3.1%	6	2.7%
合計	196	100.0%	221	100.0%



【調査結果】

平成30年度に引き続き、利用証制度等の普及啓発と、車いす駐車区画利用対象者の説明看板の設置を求める声が多い。また、「罰則規定を設ける」が7ポイント増加している。

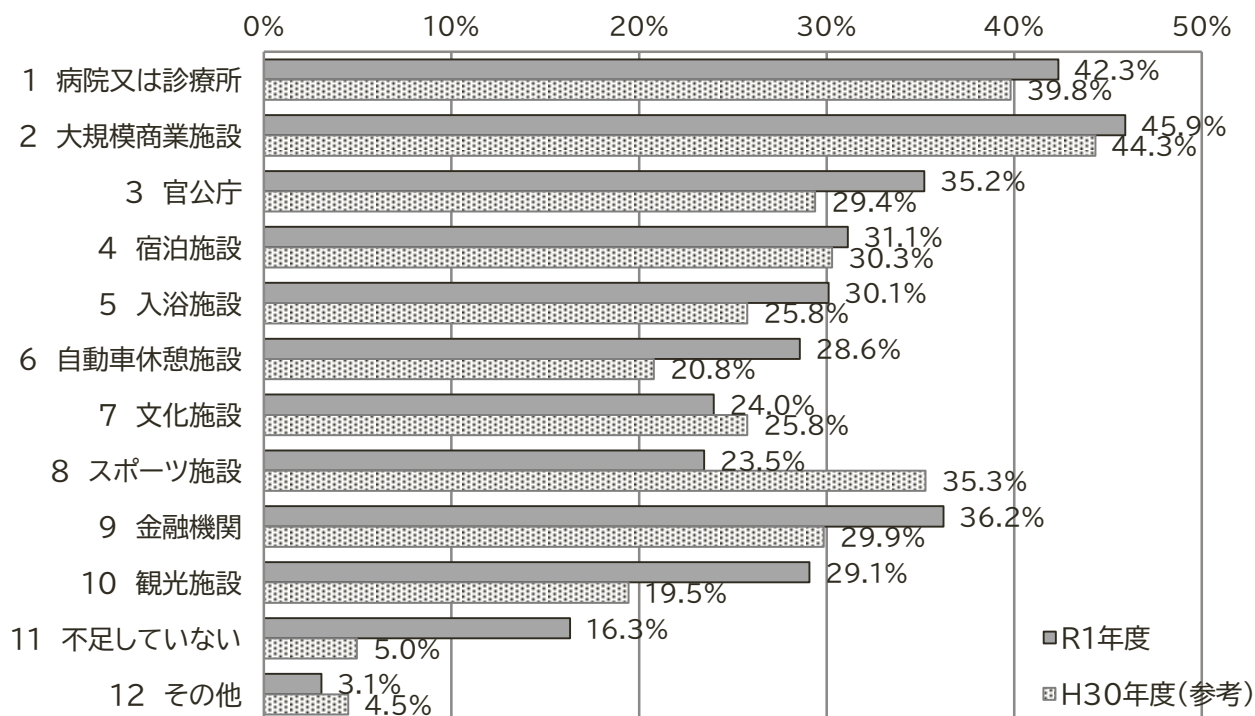
< 5 その他の内容 >

- 十分ではないかと思う。
- 罰則・普及啓発以前に、小さい頃から家庭（両親）から学び自然に身に付けるもの。国をあげて、本当の優しさや家庭教育に力を入れる。人として当たり前のことを教育を皆でやるべき。他人・行政まかせではいけない。
- 高齢者、障がい者、妊産婦等歩行困難者が使えると分かる表示が必要だと思う。
- 歩行困難者以外で使っている人がいる以上、罰は仕方がないがやむを得ないと思う。
- 「区画」表示が不明瞭（白い線が消えている）などところが多くある。
- 健常者の、「自分さえ良ければいい」という身勝手な人が、心を入れ替えない限り無理だと思う。
- どんな人が利用出来るか、周知すべき。優しくない決まりはつくるべきではないと思う。
- 正規利用者にはICチップ入りの証明書を持ってもらい、違法者が使用すると警報が鳴る仕組み。

問17

次の施設のうち、車いす駐車区画が不足していると思う施設を全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	83	42.3%	88	39.8%
2 大規模商業施設	90	45.9%	98	44.3%
3 官公庁	69	35.2%	65	29.4%
4 宿泊施設	61	31.1%	67	30.3%
5 入浴施設	59	30.1%	57	25.8%
6 自動車休憩施設	56	28.6%	46	20.8%
7 文化施設	47	24.0%	57	25.8%
8 スポーツ施設	46	23.5%	78	35.3%
9 金融機関	71	36.2%	66	29.9%
10 観光施設	57	29.1%	43	19.5%
11 不足していない	32	16.3%	11	5.0%
12 その他	6	3.1%	10	4.5%
(回答者実数計)	196	-	221	-



【調査結果】

大規模商業施設、病院又は診療所が最も多く、4割を超えている。その他の施設についても、3割程度の方は、車いす駐車区画が不足していると感じている。

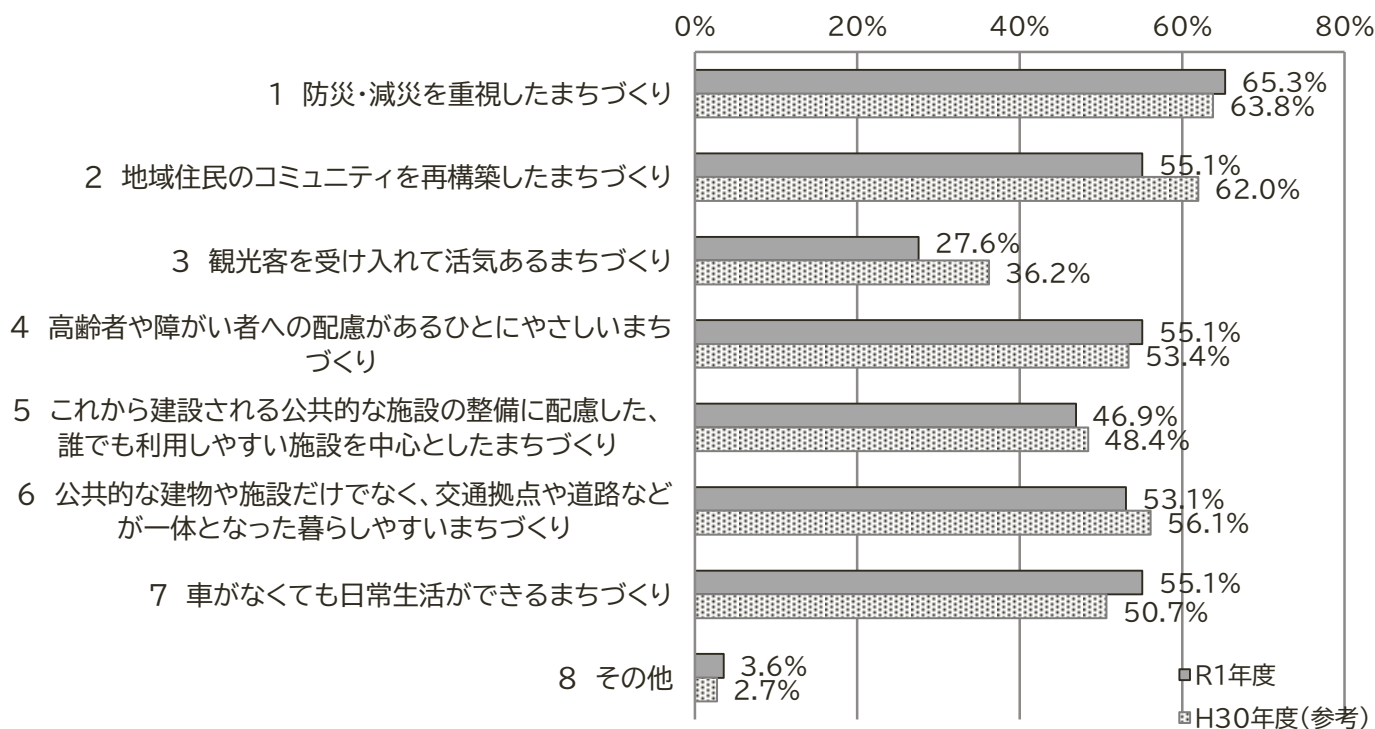
<12その他の内容>

- 車いす駐車区画を必要としたことがないので分からない。
- 選択肢「9 金融機関」は、駐車場そのものが狭い所が多く、普通の人でも大変だと思うので、障がいのある人や子連れの人などは大変だと思う。
- 利用証を表示することが一番良いことと思う。本来必要でない人が利用しているか、判断できかねることがあるかもしれない。
- 「区画」の色。放送での注意。設備は、イオン盛岡が参考となる（不足だが…）。
- 車いす駐車区画を増やし、色分けする。入り口付近を車いす用、入り口から遠い場所は車いす用としつつも、空いていたら健常者でも使えるようにする。
- 特に意識したことはない。

問18-1

東日本大震災津波からの復興に必要なまちづくりの考え方で重要だと思うことは何ですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 防災・減災を重視したまちづくり	128	65.3%	141	63.8%
2 地域住民のコミュニティが再構築できるまちづくり	108	55.1%	137	62.0%
3 観光客を受け入れて活気のあるまちづくり	54	27.6%	80	36.2%
4 高齢者や障がいのある方への配慮があるひとにやさしいまちづくり	108	55.1%	118	53.4%
5 これから建設される公共的な施設の整備に配慮した、誰でも利用しやすい施設を中心としたまちづくり	92	46.9%	107	48.4%
6 公共的な建物や施設だけでなく、交通拠点や道路などが一体となった暮らしやすいまちづくり	104	53.1%	124	56.1%
7 車がなくても日常生活ができるまちづくり	108	55.1%	112	50.7%
8 その他	7	3.6%	6	2.7%
(回答者実数計)	196	-	221	-



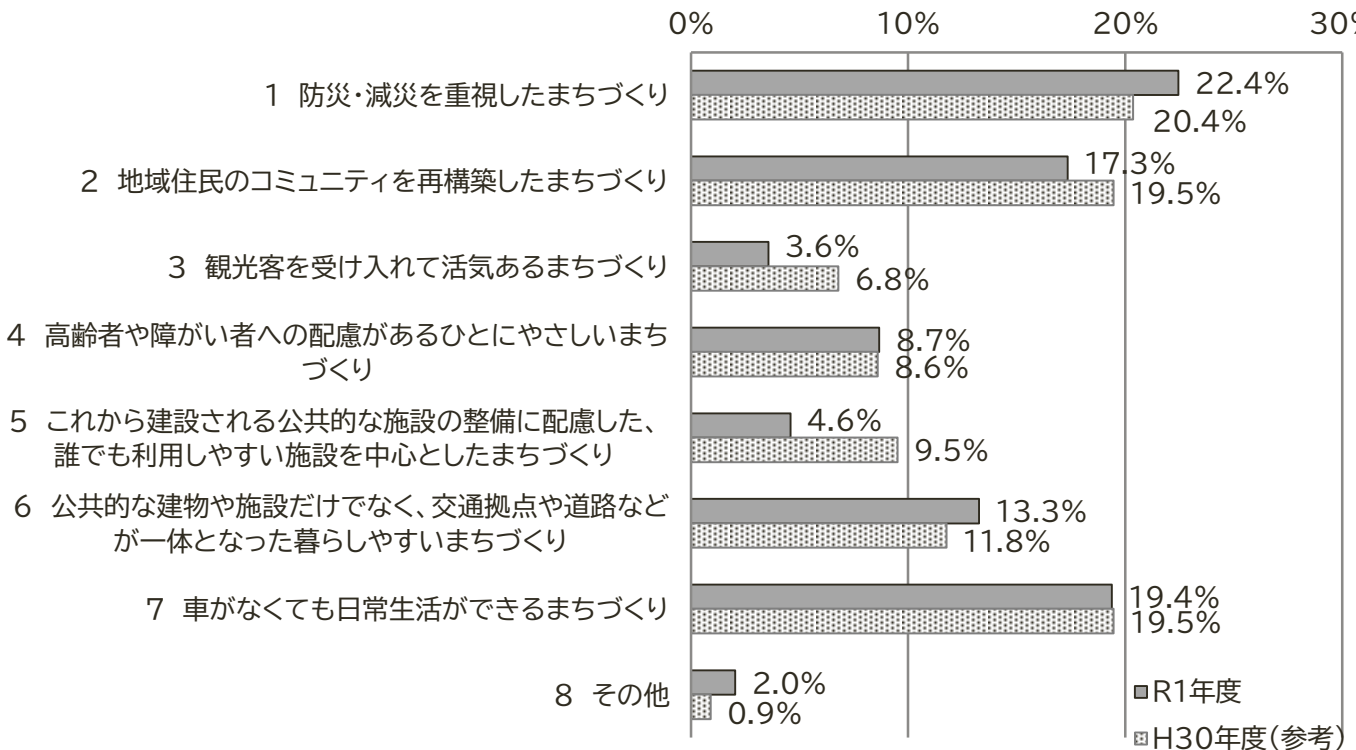
【調査結果】

「防災・減災を重視」が、平成30年度と同様に最も多い。「高齢者や障がい者への配慮がある」、「車がなくても日常生活ができる」が増加し、「地域住民のコミュニティの再構築」と並び多くなった。

問18-2

さらに、その中で最も重要だと思うものを1つ選んでください。

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 防災・減災を重視したまちづくり	44	22.4%	45	20.4%
2 地域住民のコミュニティが再構築できるまちづくり	34	17.3%	43	19.5%
3 観光客を受け入れて活気のあるまちづくり	7	3.6%	15	6.8%
4 高齢者や障がいのある方への配慮があるひとにやさしいまちづくり	17	8.7%	19	8.6%
5 これから建設される公共的な施設の整備に配慮した、誰でも利用しやすい施設を中心としたまちづくり	9	4.6%	21	9.5%
6 公共的な建物や施設だけでなく、交通拠点や道路などが一体となった暮らしやすいまちづくり	26	13.3%	26	11.8%
7 車がなくても日常生活ができるまちづくり	38	19.4%	43	19.5%
8 その他	4	2.0%	2	0.9%
無回答	17	8.7%	7	3.2%
合計	196	-	221	-



【調査結果】

「防災・減災を重視」、「車がなくても日常生活ができるまちづくり」、「地域住民のコミュニティを再構築」の順に高くなっている。

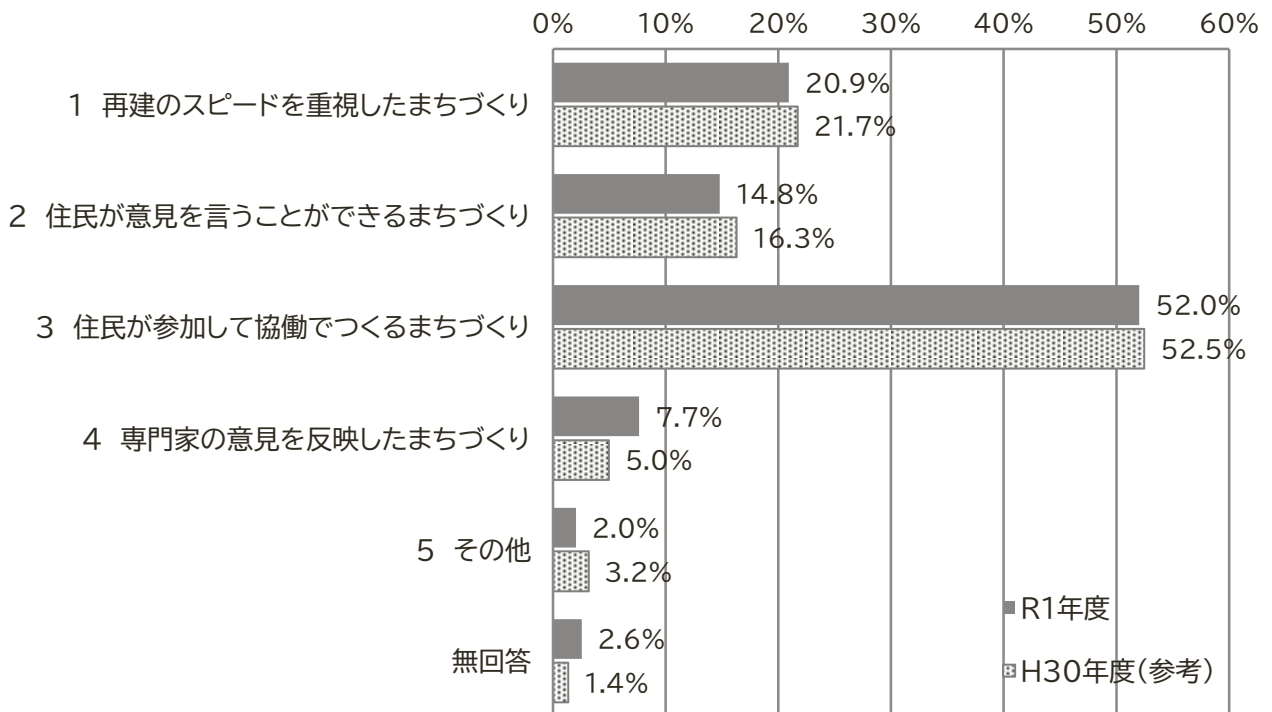
< 8 その他の内容 >

- 生業として成立する（儲かる）産業の安定化。
- 人が住み、暮らしていくことのできる「なりわい」対策。
- 「いのちてんでんこ」というのは、もっと分かりやすく、読み聞かせなどにより、0歳の人でも理解できるように啓蒙する必要があるのではと思う。
- 人の心の問題に寄り添うことが大事だと思う。
- 新しいまちづくりのときこそ対応してほしい。（陸前高田市が好事例）
- 高齢者、障がい者だけにフォーカスしないで、誰にでも優しい街を目指して施設や人を育む土壌が有れば良いと思う。
- 公共施設の高層階化及び避難所施設の併用。

問19

東日本大震災津波からの復興に必要なまちづくりの進め方として、特に重要だと思うことは何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 再建のスピードを重視したまちづくり	41	20.9%	48	21.7%
2 住民が意見を言うことができるまちづくり	29	14.8%	36	16.3%
3 住民が参加して協働でつくるまちづくり	102	52.0%	116	52.5%
4 専門家の意見を反映したまちづくり	15	7.7%	11	5.0%
5 その他	4	2.0%	7	3.2%
無回答	5	2.6%	3	1.4%
合計	196	100.0%	221	100.0%



【調査結果】

「住民が参加して協働でつくるまちづくり」が、5割を超えて最も多く、次いで、「再建のスピードを重視したまちづくり」「住民が意見を言うことができるまちづくり」が多くなっており、平成30年度と同じ傾向にある。

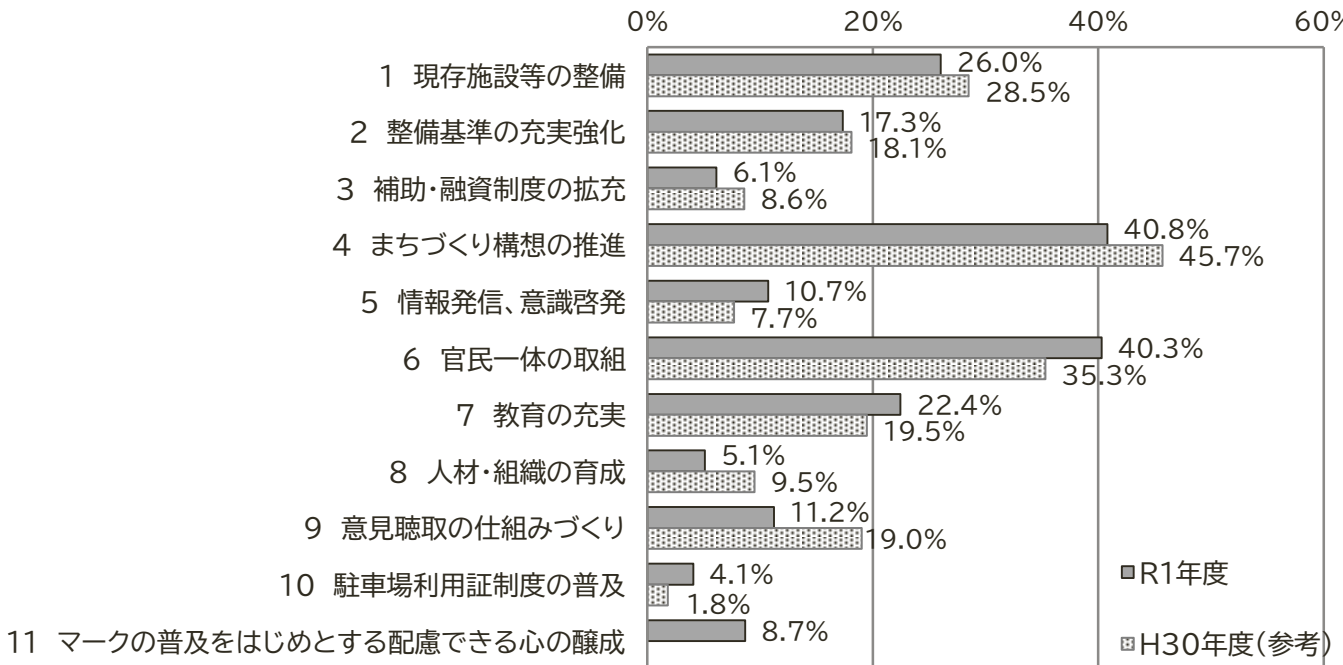
< 5 その他の内容 >

- ②と④を合わせたこと。地域住民又はその地域に関わる人々が安心して暮らせるための意見を言いやすくしつつ、それだけでは一つの考えにまとめるのは難しいので、うまくまとめられる専門家（又はアドバイザー）を入れて話を進めること。
- 人が定住可能となる産業の育成・振興。
- どこまでが復興の完了なのか、住民も妥協する必要があると思う。
- ①～④まで全て重要と思う。

問20

今後、誰もが暮らしやすい「ひとにやさしいまちづくり」を進めていく上で、施策として特に重要だと思うことは何ですか。あてはまるものを2つ選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの）

	令和元年度		平成30年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 現存施設等の整備	51	26.0%	63	28.5%
2 整備基準の充実強化	34	17.3%	40	18.1%
3 補助・融資制度の拡充	12	6.1%	19	8.6%
4 まちづくり構想の推進	80	40.8%	101	45.7%
5 情報発信、意識啓発	21	10.7%	17	7.7%
6 官民一体の取組	79	40.3%	78	35.3%
7 教育の充実	44	22.4%	43	19.5%
8 人材・組織の育成	10	5.1%	21	9.5%
9 意見聴取の仕組みづくり	22	11.2%	42	19.0%
10 ひとにやさしい駐車場利用証制度の普及	8	4.1%	4	1.8%
11 マークの普及をはじめとする配慮できる心の醸成 (回答者実数計)	17	8.7%	-	-
	196	-	221	-



【調査結果】

「まちづくりの構想の推進」、「官民一体となった取組」が4割を超え最も多い。11は今年度からの選択肢で、8.7%となった。

問21

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 人への思いやりのできる人材を育成することが大事。県、地域など広く多くの人を育成することが必要と思う。
- 行政面からの普及・啓発も必要だが、市町村内にある町内会自治会等の中で住民意識の向上が無ければ、効果は上がらない。
- 歩道にでこぼこがあるなど、車いすでの通行に不便な場所を点検、修復。点字ブロックで車いすの通行がガタつく。
- ハードよりソフト面のところで「何か出来ることがあるか」とか「いつでも手を差し伸べます」という気持ちでいる。
- ハード面が整備されるのは良い事だが、結局は中（ソフト・人）が変わらなければ、「ひとにやさしいまち」にはならないと思う。子どもの頃からの習慣だと思うから、学校での講話等、親子で考える機会があるといい。体験者の話や映像等、触れられるといい。
- 障がい者、高齢者へのやさしいまちづくりとは話は逸れるが、先月箱清水で盛岡市立高生が車にひかれた事件。その直後、そこを通りかかったのでとても心配している。と、同時に事故が起きて当たり前の道路に何も対応しないことに腹が立つ。あの通りは、点々と横断歩道があるが、交通量が多い割に信号は一つもない、夜は暗い、坂やカーブで危ない等、危険要素がいっぱいである。ドライバーも歩行者も注意するのが一番大切だが、それを促す環境を作ってほしい。県内には危険地帯がたくさんあると思う。バリアフリー等々も大切とは考えているが、新しく作るだけでなく今あるものの見直しすることも「ひとにやさしいまちづくり」と思う。盛岡市天昌寺の横断歩道、信号はないが夜になると標識が点灯していてドライバーも歩行者も意識しやすく素敵であった。
- 車いす用駐車区画について、夫が障害者手帳を持ち、利用証も持っていたが、健常者が平気で使用しており使えない時が多々あった。学校教育の中で思いやり等教育するべきと思う。
- 保育所に入れないう子、児童虐待、育児放棄の母等子どもをとりまく問題が多すぎると思う。県民皆で、弱い者へ目を向けなければならないのでは。
- 特にスーパー等で、障がい者用駐車区画を健常者が平気で利用しているのを見ると腹が立つ。注意しようと思うが出来ない自分にも腹が立つ。
- 小さい頃から人に優しく接する教育を自然に進めていく。
- 「ひとにやさしいまちづくり」も大事だが「ひとにやさしい」「ひと」が増えれば「ひとにやさしいまち」ができる。
- 施設のバリアフリー化は進んでいると思うが古い施設は未だ改修等が必要な所も多いと感じる。計画的な改修による改善を引き続きお願いしたい。

問21

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●今のところ人間にしかない「相手の気持ちを考える」という心や想像力を育てる。（仕事で、子ども達に、世界中にはたくさんの困っている子どもがいることを話したら、「好きでその家庭に生まれたんでしょ？」「冬に川が凍結しても、氷を割れば水も飲めるし、顔も髪も洗える」という言葉が返ってきて、怖さを感じた。早く心を育てなくては大変なことになるのでは…？人間として機能しなくなり、国がなくなるのでは…？）

●障がい者用駐車区画のラインが消えているところが多いので、引き直してほしい。

●どこの誰がどんなことで困っているか、どんな助けが必要か。近隣から、集落から、市町村からと、小さめの単位からの具体的な要望を拾いあげていき、その上で対応していけるような組織づくりができるとうい。

●ひとにやさしい駐車場の利用対象者について、障がい者は対象という認識はあるが、高齢者や妊産婦も停めてよいのだという認識が薄いと思う。理解される方が増えるとよい。

●人を思いやる心を皆が持っている社会になれば良いと思う。

●高齢者や障がい者（認知症含む）が、気軽に語り合えるように、地域での安らぎの配慮、気配りが必要だと思う。

●人を思いやるマナーの育成は、幼いときから家庭、教育現場で取り組まなければならないと思う。親子での講演会等を、地域の学校や公共施設等で出来たら良いと思う。

●防災・減災も重視し、利用しやすい環境を図ること。

●住民が関わって作るまちづくりが大事。

●真の「ひとにやさしいまちづくり」の形成にあたっては、ハード面からの改善整備とソフト面における醸成と同時並行的に進めることが肝要と考える。

●数年前前にこのアンケートで書いた商業施設で、重い扉を開ける対応をしている。

●スロープがクネクネ曲がっていて、登りづらい所がある。

●交差点の段差が危ないと思うことがある。

●街や町の単位で工夫されていると思うが、誰が見ても、どんな状況でもすぐ理解できるようなポップや絵で、日頃から慣れ親しみ、分かりやすいポスターなどがあらゆるところに示されているのが望ましいと思う。

問21

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 大型商業施設では、警備員がいたりすることで、本当に必要な人のみが車いす用駐車区画に停めているのが分かるが、小さい銀行の支店や小さなスーパーでは、誰でも停めてよい、少しの時間ならよい、という認識になっている気がする。昔からあまり変わっていないと思う。
- 母が車いすで街中を歩いたとき、たくさんの方から声をかけてもらったり、助けてもらったりした。盛岡っていいな、やさしい街だなと思う。
- ハード面は予算的にも限界があると思う。ソフト面を充実させる。最も大切なのは、心。思いやりに尽きると思う。
- 去年、モニターアンケートに回答したときと、あまり状況が変わっていないと思う。車がなく、公共交通機関を利用している交通弱者のための仕組みを作ってほしい。主要なバス停の除雪やバスセンターの早期新設など。
- 健康管理の充実を図り、自立避難に力を入れる。食・農・保の3点を連携し、SDGsに進む。
- 公共施設などは、以前から整っていると思うし、まちづくりなどは計画されていると思うので、都市計画以上のことは望まない。
- 引きこもり対策。
- 老人への再就職対策。
- 仕事ができるのに、仕事を探さないで、生活保護を受けている人々を何とかしてほしい。
- 児童相談所の充実。
- 障がい者や高齢者に対する対応はもちろんだが、観光客など荷物が多い方（キャリアケース持参者）に対応できるよう、公共施設のエスカレーターの設置を充実してほしい。
- 公共的施設と駐車場が、遠くにある場合が多い。市役所、体育館、図書館など。余計なスペースを作るより、駐車場を近くにしてほしい。台数も多く停められた方がよい。
- 運動会等で障がい者の用具を使った競技があってもよいのではないか。
- 岩手県としてみたとき、私の住んでいる奥州市は、20年前と全く変わっていないと思える。奥州市に人口が増えて、住みよいまちづくりを。専門家の話を聞いてみたい。

問21

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 車いす用駐車区画に、健常者が停めて歩いて行くのを幾度となく目撃している。即座に注意をしたくなりますが、現実的には難しく歯痒い思いをしている。大人たちが、思いやりの心、マナーについて勉強しなければならない。
- 多くの人からの意見を聴く機会を設定し、迅速な対応を具体的に示すこと。
- 現在は不自由なく過ごしていますが、今回のアンケートを通して色々意識させられた。「ハード」と「ソフト」はもちろん大事だが、根本は「やさしい気持ち」と「思いやり」だと思う。
- 車いすや障がい者に必要な器具の購入に際しての補助。
- 障がい者・高齢者の意見、要望を収集して住みよいまちづくりを推進してほしい。
- 県の取組を県民に広く普及させるための活動を充実してほしい。
- 問20の選択肢は、いずれも重要。
- 県、市町村職員全員の認識の向上が重要。研修を義務付けてはどうか。
- ひとにやさしい関係事業の大幅な予算増額をされたい。
- 身近な親族が、高齢、障がい、認知症等になったときが、やさしさ、思いやりを育む勉強になると感じた。当人を支えるのはもちろんのこと、その家族を支える支援も大切なのではと思う。
- 今年度の流行語でもある「ワンチーム」で「ひとにやさしいまちづくり」に限らず、県民一体となって取り組むことが必要だと考える。
- 障がいの有無や外国籍や国内の籍を持っていようがなかろうが、差別や偏見なく過ごせる雰囲気や空気を大切にしていかなければ、「ひとにやさしいまちづくり」の実現は程遠いものになっていくと思う。（多様性を認める（民族のこと）とか）
- 人口減少が進み、地区に子どもが少なくなったせい、地区のコミュニケーションが薄れてきたと感じている。「ひとにやさしいまちづくり条例」を根気よく進めていくべきだと思う。
- 当たり障りのない内容だけでなく、イジメやパワハラ等の対策も急務ではないかと思う。
- 「ゾーン30」（最高速度「30km」の速度規制）を増やしてほしい。（通学路、住宅街）
- 「ひと」にやさしいまちにするには、犬や猫などの動物にもやさしくすることにより、「いのちの大切さ」を子どもたちが学び、弱者に対して思いやりを持って接することができるようになると思う。

問21

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 車がなくても日常生活ができるように、バス代やタクシー代など補助してほしい。
- 一人ひとりがお互いに相手を思いやる気持ちを持つことが大事。自己中心的、モラルのない人がいることは残念。「ヘルプマーク」をポスターだけでなく、もっと周知してほしい。
- ゆっくり立ち止まって話し合いが出来るコミュニティ広場の設置が必要。
- 常に「自分が」ではなく相手を重んじる気持ちを醸成する事が一番重要である。そのためには、日常生活においても相手が喜ぶことを意識して行う習慣が大切である。「ひとにやさしいまちづくり」をしないでも「ひとがいつもやさしい」社会が実現することを望む。
- 隣近所（近助）。道路であっても誰にでも声を掛けられるお付き合いができるようになれば良い。
- 大人になってしまうと、なかなか学ぶ場が少なくなって理解が得られないことがあると感じる。若い世代が学ぶ場で、学校で、大人になっていく過程として教えていく方が、未来は明るいのではないかと思う。
- 「ひとにやさしいまちづくり」として特化するのではなく、まちづくり全体の計画や、県政の諸改革の中に、必ず、ポリシーの一つとして、今回のアンケートに見受けられる趣旨が反映されることを望む。
- それぞれの立場に合わせて、安心して暮らせる環境を整えばよいが、決まった予算の中で、民意を取り込みながら進めるまちづくりには、ある程度県民の理解も必要だと思う。数年後の岩手県の姿が見えるようビジョンを示してもらえると、故郷岩手の将来像をイメージしやすく、これからも住み続けたい県となっていくと思う。リーダーシップを期待する。
- 誰もが同じ立場で利用できる社会。
- 健常者の意見より、援助や配慮を必要とする方々の意見を多く取り入れて 環境の整備、設備の設置を進めてほしい。健常者には不便と思わない設備でも不便を感じる方々がいることを理解してほしい。
- 作る側と使用する側がもっと話をするべきだと思う。使って優しい施設が増えることを望む。
- おじいちゃん、おばあちゃんと同居していない子ども、兄弟のいない一人っ子、ひとり親、共働きの方の子ども、弱い人や立場の弱い人の気持ちがわかる子どもの教育が大切と考える。小学中学の義務教育の道徳の時間で考えてほしい。

問21

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●車いす駐車区画に関しては、若くて健常者と思われる方が堂々と停めることに辟易することが多々ある。ひとにやさしい駐車場利用証を持っている方が、その周辺を徐行してるのを見かけ不憫に思うが、声をかけるには至らず、そんなときはもやもやした気持ちで帰宅する。障がいがあることを隠す方もいるので、健常者ばかりを一概に責められないが。

●車いす用駐車区画について、スーパーや公共施設で、もう少し増やす余裕があるのではと思うくらい少ないところもある。

●考えてみれば、今までそういった問題に対して、意見を言う場に直面したことがないと感じた。どこかであるのかもしれないが、もっと広く意見を募るような場面も必要だと思う。

●今まで障がい者や高齢者が困っているところに出会った事が無く、役に立った経験がない。お子様連れの妊婦を見かけると、何か手助けしたいと思うが、自分が高齢者のため気遅れする。

●新しい商業施設には、特に、ひとにやさしい駐車場が複数配備されているように感じる。しかし、利用数と配備数が適切なのか疑問に思うこともある。

●重い商品を買ったり、幼稚園以下の子どもがいるお母さんなど、店の近くに駐車したい方はいると思うため、皆がうまく使えるような取組みがあれば、有効に活用できると思う。

●バリアフリーを考えた道路整備等は進んでいるように感じる反面、バリアを感じる道路が多いことも実感する。考えられていることだとは思いますが、障がい者の方が多く利用する動線を考え、優先的にバリアフリー化することで、まずは、バリアがあることで一番困ってる方々が暮らしやすい街にできればと思う。

●ボランティア関係の教育よりも、「援助が必要な人を助けたいと思っているが、行動に移せない」人たちが行動できるような広報活動やまちづくりの施策を進めることで、一番コストをかけずに手助け人口を増やすことができるのではないかなと思う。

●「ひとにやさしいまちづくり」を構築していく為には、行政だけでなく、民間企業や住民の意識も変えていかないといけないと思う。行政が中心となって、一部ずつ変えていくのではなく、街全体のことを考えて進めていければよいと思う。まずは、自分自身の意識を変え、少しでも岩手県が、日本が変われることを願っていききたい。

●盛岡市役所正面玄関前に雨よけが欲しい。雨の日に行かなければならないとき、たとえ必要とするのが、年に一人だとしても、車いす使用者への配慮がほしい。バリアフリーの必要性は、人数ではない。バリアフリーが進み、暮らしやすい岩手県になるようお願いする。

問21

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●車いす使用者にとって、道路のでこぼこなどの路面状況は特に問題がある。栃内病院前から今井産婦人科への道路は、歩道途中に電柱がある。左側に駐車場があり、歩道を車いすでは通れない。小学校もあり、歩行者が多い界限にも関わらず、電柱が歩行者の通行を妨げている。市内全てをバリアフリーに、快適に、というのは無理があることは承知しているが、バリアへの気配り姿勢、人が手助けするということ、岩手県はその先進地にと願う。

●人に優しくなれるほどまちの人たちに余裕はなかろう。

●特に交通機関が充実し高齢者が不便無く病院や買い物等が出来たらいい。

●岩手は広いので、都会ほど人との距離が近くない。良いときもあれば不便なときもある。普段、電車通勤しているが、体が大きな若い男性が座席で足を広げゲームしているのを見る度に、周りに気を配ってほしいと思う。

●何度も何度も住民の意見を聞いた上で吟味して、丁寧に掘り下げて考えて、具体化していく必要がある。

●市町村によっては予算等もあるだろうし、ひとにやさしいまちづくりをより実現させるにはまだ時間がかかると思う。特に地方の衰退は激しく、首都に近い都市に比べると、実現は遠いと思っている。まずは、日本のトップを変えなくてはいけない。税金ばかり高くなり、その税金の使途が不明な状態。高齢者、障がい者だけでなく、一般人も今生きていくだけで精一杯である。